

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取り組み
みんなが笑って集える自然豊かで元気な龍田西校区	いきいきとした暮らしができる	高齢者、障がい者について	閉じこもり防止と見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢と共に体が動かなくなったりコロナ禍で集いの場が減少したことで閉じこもりの高齢者が増えている ・子どもが遠方で生活するなど高齢夫婦のみの世帯が増加し社会から縁遠くなっている ・認知症や昼間一人で過ごす高齢者が心配である ・高齢化が進むにつれ見守り対象者が増加し地域全体での見守り活動が益々重要となってくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・百歳体操、健康マージャン、趣味の会等を知ってもらい呼びかける ・校区のふれあい・いきいきサロン活動をとおして閉じこもり防止を図る ・見守りが必要な世帯の情報を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各老人クラブ、サークル等の既存の取組について日時や活動状況を周知
			健康と生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしだと家でテレビばかり見て足の筋力が衰えたり、話相手もいないため生きる気力もなくなる ・ふれあい・いきいきサロンへ男性参加者が少ない ・校区で高齢者を対象とした事業が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の行事を充実させると共に情報を発信する ・生涯学習や健康について学ぶ場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・75歳以上の一人暮らし、80歳以上の高齢世帯を対象とした命のバトン事業の検証 ・龍田西校区ふれあい・いきいきサロンの企画開催
			交通（移動）が不便	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設や病院等が遠く日用品の買い物や通院が難しく特に車の運転をしない高齢者や障がい者には暮らしづらい ・自宅が坂の上にある地域は高齢者の運転免許が必需品となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売の情報を収集し利用につなげる ・乗り合いタクシーが利用できる体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場を活用した移動販売の調整 ・乗り合いタクシーについて導入検討
	地域子どものみんなかで、成長を見守る	子ども、子育てについて	登下校の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの登校時に狭い道を抜け道としている通勤等の車が多いうえ、スピードも出ているため危険にさらされている。 ・登下校の見廻りを保護者と地域の方(スクールガード)で行っているが共働き世帯の増加、スクールガードが固定化している ・ツタや雑草で子どもの通学路が狭くなり登校しにくい（特に雨天時や自転車とのすれ違い時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガード（登下校の見守り活動）の継続と併せて協力者を呼びかける ・通学路の点検、清掃を行い安全を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍田西小学校子ども見守り隊「スクールガード」の活動について小学校と連携 ・自治会、子供会を中心に通学路の点検及び清掃を実施
			地域及び子育て世代同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代のつながりや子どもが異年齢で交わる機会がなくなってきている ・子供会の加入世帯が減少し、役員さんや加入世帯の負担が大きくなっている、加入しても共働き世帯で時間が取れない、子どもの土日の習い事などで子供会の行事に参加できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代とシニア世代との交流のための共同活動を模索する（廃品回収、花壇作り等） ・校区で子ども子育て世代を対象としたサロン活動に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子ども達で取り組む花壇造りの展開と継続 ・龍田西校区子育てサロンの立ち上げ
	人と人との繋がりで安心・安全	暮らし、災害について	住民同士の繋がりが希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で多くの活動に自粛が求められ交流の機会が減った。 ・コンビニ、スマホ、マイカーなど生活環境が便利になり、生活のための近所付き合いの必要性が減った。 ・余暇利用の選択肢が広がり、地域との繋がりが相対的に希薄になった ・自治会未加入世帯が増え、地域で取り組む清掃活動や行事の参加が固定化され無関心層が増えている ・新しい住宅地で町内へのなじみが薄く町内行事がない、あったとしても役員や関係者のみの参加となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前の校区行事を出来るだけ早く再開する ・子どもを中心としたイベントを開催する ・地域の住民が参加できる活動の活性化を図り交流の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流及び顔の見える関係づくりを目的としたイベントを開催
			交流できる場所が不足	<ul style="list-style-type: none"> ・校区住民が集まれる施設が校区内に公民館1ヶ所、団地集会所1ヶ所のみで住民同士の交流機会が少なくコミュニケーションが図りにくい ・校区内に子どもが気軽に行けるような施設が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者も子どもも集まってくる校区の「縁側」が必要である ・龍田西地域コミュニティセンターの早期建設を要望する 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍田西地域コミュニティセンターの建設について熊本市との協議を継続
			地域ボランティア担い手の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観の多様化で、地域活動に対するひとり一人の考え方が異なり、賛同が得られにくい状況になっている ・組織はできて、実際に機能するまでの実質的な準備が出来ていないため人が育ちにくい ・地域に関心のある人が減少し、孤立している人、障がいがある人、近隣での助け合い、子どもの成長、ひとり親など支援が必要な方への関心が希薄化している ・民生委員、保護司、少年補導員、交通指導員、自治会役員等の高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区における地域活動の情報発信を積極的に行う ・地域活動に協力してもらえる担い手を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区行事やイベントを通じた若い世代との関係構築 ・校区社協だよりを発行し活動を周知
			支援が必要な世帯の把握 災害時の支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が担当している世帯は把握出来ているが、要介護、要支援、認知症、障害者、一人親世帯等の把握が困難である ・プライバシー、個人情報の保護により家族構成等把握ができない ・災害時における要援護者の避難支援について自治会、民生委員・児童委員・児童委員の近隣住民等の協力体制が十分整っていない ・近所付き合いが減少し災害時における共助に不安がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする世帯が直接相談出来るように相談窓口の情報を整理し周知する ・災害時要援護者避難支援制度を活用する ・町内ごとに避難手段の確認を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し校区社協だよりを活用した相談窓口の情報発信 ・個別避難支援プランの作成 ・要援護者避難の初動体制の確立